

私とアマチュア無線

2011年5月 JA1FY&AD6ZW野田隆志

1, アマチュア無線を知った頃

私が小学校に入学したのは昭和14年(1939)です。

暫くして船やグライダー、1本胴ゴム紐動力の飛行機等を作って居ました。昭和20年(1945)中学校に入り8月に終戦です。

その後父が持ってきた鉱石ラジオを壊したりしている内に、学校の物理部に入って、ラジオ作りの仲間に入りました。

中学から高校はそのままですが、ラジオをいじれる人が少ない為、ラジオ作りの3人は無理矢理、生徒自治会放送部に入れられ学校放送の807パラッシュ100wアンプの面倒を見させられました、

その頃から短波受信機を作りBCLをやっているアマチュア無線に気が付きJARLに入会SWL番号を貰ってSWL CRDを作りました。

2, アマチュア無線始める

2, 1 開局まで

昭和20年(1945)終戦

昭和25年(1950)講和条約

昭和26年(1951)6月新電波法発効第1回アマチュア無線技士国試

昭和27年7月第1回合格者が予備免許で電波を出し始めました。

●昭和27年(1952)9月期私は第2級アマチュア無線技士を受験、2月に免許証受領しました。

私は終戦で復員してきた親戚の元陸軍航空隊通信教官に電気通信術を教えて貰ったので和文は出来ましたが欧文がだめで2アマを受験しました。

当時の2アマは電気通信術がありません。(今の4級と同じです)

それから当時の従事者免許は有効期間5年だった様です。

そして確か或る期間業務に従事していないと再免許されなかった様です。

最初の頃の免許証はプロの物とかかわらず立派な物で最後の頁には英文で記載されて居ました。

当時は従免も局免も私は真面目に返却していたので残って居ません。

何故か昭和35年4月28A I H第254の2の免許証があります。

この254の2という免許証から終身免許になったので残って居ります。

●昭和28年(1953)4月予備免許、6月に晴れて開局しました。

東京都台東区浅草橋場、父が勤めていた東京ガス千住工場の社宅です。

罫紙にカーボン紙挟んで書いた申請書と、受け取った手書きの予備免許の書類を次頁に添付します。



2、2 開局当時のRIG

●当時は皆さん自作RIGでセパレートです。

(次頁写真参照)

2級はA3、事実上7MHz、と多分50MHz以上の様です。

(JA1CMが144MHz FMオンリーで免許されて居りました。)

水晶制御のスポット免許7050.7087.5KHzですから局数が少なくても全国区です、混信でやりきれません。

たまりかねて皆さんヤワラカイ石と称してVFOを作って使って居ます。

私の写真にも証拠が残って居ます。HI!

この頃は10Wでも必ず落成検査が有り、事務官と技官二人で重いヘテロダイン周波数計を持って検査に来ました。

また毎年定期検査が有りました。

検査の時は勿論ヤワラカイ石など押入の中です。HI!

●昭和28年11月の大学祭に移動(当時移動局は許可されて居ないので設置場所変更申請)、12月再度我が家への設置場所変更と共に50MHz A3と6月13日許可になった3.5MHzバンド3504, 3510KHz A3を追加しました。

50MHzは12AT7(双三極管)の片側で8MHz台の水晶から3rdオーバートーン発振でいきなり25MHzを出し片側でダブって50MHzを出します。出力は2E26、当時としてはトテモ、コンパクトなRIGでした。

検査官が周測で基本波を探しても見つかりません。

アレ？—基本は出ません等というやり取りは今では考えられませんHI！

●50MHzの受信機はとりあえず超再生検波です。

50MHzはガラガラなのでブロードな特性のこの受信機は何方かバンドに出てくると分かります。

何しろ水晶制御ですし、皆さんそれ程沢山水晶お持ちでは有りません。

持って居る水晶でCQを出しますから、バンド中探して呼びます。

当然同じ周波数の水晶なぞ持っておりませんから双方色々な周波数を使つてのQSOになります。

私は間もなくコンバーターを作りHFの受信機に付けて使いました。(2局出て来ると超再生では混信して仕舞いました)



50MHz EスポでのQSOはCRD
が来るまで信じられませんでした。

机上左が受信機、その上がやわらかい
石HI！

中央が変調器

右がHF送信機と電源

棚の上が50MHz送信機

2SL CRD



7MHz 1st QSO, JA1EQ 50MHz Eスポでの1st QSO

2、3 クラブ